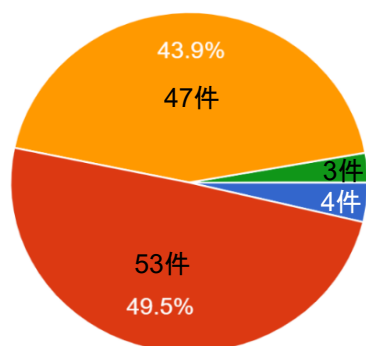


受入病院:99施設 回答率:100%

回答件数:N=100 回答数:n=107(重複回答7件含む)
1施設はコロナにより事業の中止

1. 事前準備や人員調整について



- 大変だった
- まあまあ大変だった
- あまり大変でなかった
- 大変でなかった

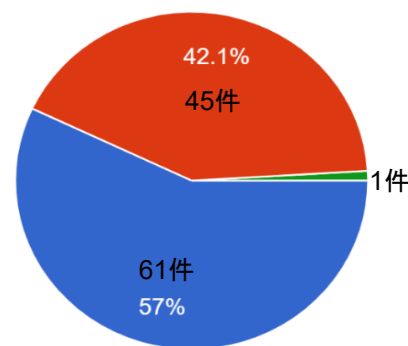
【大変だった・まあまあ大変だった】

- ・担当になり3回目なのですが、病院事業管理者との調整や、学校への文書の郵送、会計処理など細々なことに時間と手間がかかる。
- ・各高校への案内文書や、院内協力を得るための依頼文書の作成が多く大変だった。担当者を昨年の3名⇒6名へ増やして実施した。
- ・病院見学ツアーで他部署を回り、その部署での役割や看護へのアドバイスをもらえるよう、根回しが大変だった。
- ・結果、昨年と同じようなスケジュールとなってしまったが、体験してもらう内容などを検討するのに時間がかかった。今回は外来部門の見学も取り入れたため、時間の調整などに時間がかかった。また男性の体験者には男性看護師の意見が聞けるように担当を調整した。

【あまり大変でなかった・大変でなかった】

- ・事前のスケジュール作成や郵送は毎年行っているのものでそれほど大変ではない。当日の運営は感染管理認定看護師や教育担当看護師、病棟看護師に協力を求めた。
- ・高校生一日看護師体験を毎年受け入れをしており、マニュアル化されているためあまり大変ではなかった。
- ・時間に余裕を持つようにスケジュールし、毎年体験事業が終わった後に来年の計画を立てるようにしている。

2. 高校生が看護職を職業選択するための一助となる内容として実施できたか



- 実施できた
- まあまあ実施できた
- あまり実施できなかった
- 実施できなかった

【実施できた・まあまあ実施できた】

- ・聴診や心臓マッサージ体験を実習したり、若手看護師との質問コーナーでリアルな看護師の仕事をイメージできたと感じをいただきました。
- ・体験後、看護師の目標に向けて更に頑張りたいと意欲が見られた。
- ・あまり経験できないような実施内容(嚥下食試食、採血人形を使っての体験、経管栄養の見学など)での体験を行うことができ、実際の雰囲気を知れるきっかけになったのではないかと思います。
- ・看護師からのミニ講義、病院内での実習など実際の声や看護を見ていただくことができました。グループワークでは緩和ケアの視点から患者や患者家族の想いを想像するというグループワークを行い、看護を色々な角度から体験していただきました。
- ・看護職について具体的にイメージが出来たと思う。特に若手看護師との交流会においては、活発な意見交換ができ、「参考になった」、「看護師になりたい気持ちが強くなった」という肯定的な意見が聞かれた。
- ・看護師の業務見学に加え、病院で働く多職種の紹介を行ったことで、職場の理解に繋がった。

【実施できなかった】

- ・複数病棟でのクラスター発生のため中止した。

3. 受入にあたり(安全対策面など)工夫した点

- 個人情報についてや指導者の指示に従うなど、基本的な注意事項を生徒、指導者に伝え実施しています。
- 病院では感染対策を継続して実施しているため、発熱・呼吸器症状の有無の確認やマスク着用の必要性など、事前に当院からのお願いを配布した。また当日も、病棟での体験ではなく、講堂での体験とした。
- 必ず指導者と一緒に行動してもらい、感染対策・医療安全面など配慮した。
- 看護師7名が看護体験の担当者として関わり、手厚い配置にした。
事前準備に2日間かけて十分なシミュレーション、物品準備などをしたので、当日スムーズに行えた。
食事介助は、高校生の羞恥心に配慮して、患者役は看護師がやった。
- 体調管理のため、頻繁に体調確認を行ったり、座位と立位の内容が交互に来るよう工夫した。

4. 体験を通した、ご意見・課題等

- 看護職を目指す高校生の気持ちを後押しして、モチベーションが高まるような関わりが必要である。先輩看護師からの話しや具体的な看護体験が効果的であったため、今後はその点を意識して取り組んでいく必要がある。
- 実際の看護場面を見学・体験し看護師と話をすることで、看護の道を志すきっかけ作りになると思う。
- これから看護の道を考え始めた高校生にとって夏休みのこの時期に行くことは、タイムリーで良いと思う。
- 他病院などの体験を参考に魅力ある看護体験にしたいと考えている。看護職を目指したい学生に来てもらえることは大変ありがたいと考える。希望者がいれば、午前・午後共に2名ずつ増やすことも可能である。
- この体験事業は、医療職への関心を高める貴重な機会だと思う。看護師のやりがいや責任を伝えるために、実際の業務を体験してもらうとともに、座談会で現場のスタッフの声を届ける工夫をした。受け入れ側として、単なる見学に終わらず進路選択につながるような学びの場であってほしい。今回、職場体験中の生徒の様子や表情、また、アンケートの結果などから、準備など大変ではあったが、受け入れて良かったと感じた。
- 違う学校同士で、交流を持ち、進路の話や、受験について話しており、情報共有にもなったと思われる。
- 今回からアンケートがwebになりましたが、自施設参加者の結果が見れるとよいです。
- 体験後のアンケートがWEB回答可能になったのは時代に合っていて良いと感じた。
事前に学生にどんなものが見たい、どんなことを体験したいというのが分かると、より準備もしやすいと感じたし、学生のニーズにも応えられると思った。
体験先が第一希望ではなかったという学生がいたため希望は叶えてあげてほしいと思った。学生が何科を体験してみたいかが分かれば希望した病院でなくても斡旋することができるのではないかと考えた。
- 参加者同様、受け入れ側の看護師も、体験事業という機会を得たこと、参加者からの質問や意見をもらえたことで良い刺激もあり、新鮮な気持ちになりました。

5. 体験事業の感想や体験された高校生や若年層に期待する事

・看護師に対するイメージが付き、参加して良かったという意見が多かった事から、ぜひ、看護師をめざしていただき、地元で活躍して頂きたいと思います。

・はじめましての高校生たちでしたが、看護体験を共にし、最後には連絡先を交換し合い写真撮影する姿に短時間で仲を深めるコミュニケーション能力の高さはほほえましさとたくましさと、将来への期待を感じました。礼儀正しく、はきはきとした受け答え、みなさんと共に働ける日が楽しみです。

・各看護学校がオープンキャンパスを行い、今回の体験者もすでにいくつか参加していたようだ。同じようなことを企画しているのではないかと心配になる。差別化を図るため、実際の患者さんとのかかわりを増やした方がよいとも考えるが、病棟の負担が大きく半日が限界である。

・当院での体験が看護師を選択する一助となるよう、期待を込めて工夫して企画しています。少しでも看護職への理解が深まっていればありがたいです。

・体験にきた2名(1年生と3年生)は、看護師を目指したいと明確な意志を持っており、学校ですでに医療の課題について調べたりディスカッションしたりしているとのことで、将来に向けた取組みを高校で行っていることに感心しました。この看護体験を通して感じた思いを忘れずに、ぜひ看護の道に進んでほしいと思います。

・人への関心と共感力を育むこと

医療の仕事は「人と向き合う」ことが基本です。今回の体験を通じて、患者さんやご家族の思いに耳を傾け、相手の立場に立って考える姿勢を大切にしてほしいと思います。

・今回、キラリ看護のシゴトの動画を活用した。興味をもち、見ていたため、高校にも広報するといいと感じた。

・進路決定の早期からこうゆう事業に参加できる環境を提供し、看護師の魅力を伝えて行きたい。

・近年、看護師だけでなく保健師や助産師を目指す学生が増えてきていると感じています。
この体験で学生より、「今後の職業について考える幅が広がった。」との声を聞けてよかったと思います。

・今回の体験を経て、看護師になるまでの過程であったり、働いてからの現場の雰囲気を感じてもらう事ができたのであれば良かったです。やり甲斐のある業種なので、ぜひ前向きに検討してください。

・体験でみえる部分と実習をして感じる部分と、入職して実感する部分でギャップを感じる機会は多くあると思うが、学びの機会と思ってよりよい看護師になるためのステップとしてもらいたい。

・看護師について理解を深めてもらうことが出来たようでとても有意義な体験事業となったと感じています。大変ですが、やりがいのある仕事であり、改めて看護師を目指そうという気持ちになったという感想も聞かれました。今回の体験が看護師の良いイメージに繋がり今後の進路への1つの選択肢になることを期待しています。